

令和元年度 第1回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 令和2年2月27日（木）午前10時から

場 所： 生駒市図書館 実習室

【参加者】 岩崎れい、大谷裕美子、平井富久子、植田真実子、森田留美、深瀬重雄、
新土和美、喜多美枝子

（欠席）松井功、辻中伸弘、城野聖一

【事務局】 西野貴子、平澤佐千代、錦好見、中谷知子、入井知子、中川公子、廣松典子（以
上図書館）

1 開会

2 案件

（1）「トライ！生駒子ども読書3．0会議」について

◎昨年度、当会議において、平成17年度策定の「生駒市子ども読書活動推進計画」が今年度、5年ごとの活動見直しの年にあたることから、「今」の子どもたちの読書や読書活動の実態を把握すべく、事務局でアンケート案を作成し、委員の皆様にご意見をいただき、実施を計画した。

しかし、市民の生の声を直接聞き、それぞれの現場における悩みや課題を共有し、今後の目標と具体的な推進策や連携方法を見出す方が、今後の子ども読書活動を考える上で、効果的と考え、アンケートに代わり今年度ワークショップ「トライ！生駒子ども読書3．0会議」を実施することとなった。

*第1回：8月1日

- ・基調講演（一般公開）

演題「子どもに読書の楽しみを～生駒の子ども達のために今できること～」

講師：岩崎れい氏

- ・学校の先生、ボランティア、学校司書、保護者、行政職員、図書館職員による活動紹介と、課題出しのグループワーク

*第2回：8月8日

グループワーク：課題の共有と解決策の検討

本活部（南分館で活動する中・高生からなる本の活動グループ）の意見を聞く

*第3回：8月22日

グループワーク：課題、解決策を整理し、発表。グループのメンバーを入れ替え、情報交

換と来年度の目標等を話し合う。

他市の事例紹介

＊第4回：11月14日（追加）

ワークショップの意見をまとめ、報告

今後5年間の目標を家庭での読書推進を目的とした「家読（うちどく）にトライ！」とした。情報交換、事務連絡、研修などの場として「トライ！生駒子ども読書会議」を定期開催し、社会教育指導員に議長をお願いした。

- ・「トライ！生駒子ども読書3.0会議」は、横のつながりをつくるきっかけとなり、お互いの活動を知ること、これからのそれぞれの活動のステップにつながったのではないかと。
- ・多くの学校が朝の読書に取り組んでいる。図書委員の中でアンケートを取ると、中三になると受験もあり、朝の10分が生命線だとわかる。一斉に読むことは、細く長くだが、効果があると思う。そこに、新たな市の取り組み、「家読（うちどく）」が加わるとさらに効果があるのではないかと。
- ・保育園の状況をいうと、家で本を読んだ、図書館に行ったというのは連絡ノートに皆無である。親が忙しい中で、親子で本を読むというのは難しい。
- ・ちょっとした工夫で、何冊も本を借りたり、これがおすすめというのがきっかけにもなったりする。何かのきっかけで本が好きになる、そのための努力が必要である。そういう工夫を知れる機会も大切だと思う。
- ・3.0会議では、色々な立場の人がいて、それぞれの立場のはなしが聞けて参考になった。
- ・図書館と一緒に活動する中で、他で活動されているボランティアとの連携ができればと思うことがあった。また、園や学校に行かれているボランティアの方にも図書館の講習を受けたり、展示なども見に来ていただきたいと思うこともあった。3.0会議でみなさんと会えて、つながるきっかけとなったことが収穫。
- ・3.0会議は、様々な立場の人たちが参加していることがよかった。これまでの会議においてもだが、様々な立場の人の参加というところで、他の自治体より考え方がすすんでいる。家庭での読書が難しい家庭のことを知っている方が参加しているというところでも有意義な会議だったのではないかと。

（2）「生駒市子ども読書活動連絡調整会議5カ年のまとめ 平成27～令和元年度」について

◎平成16年度に「生駒市子ども読書活動推進計画 伝えよう、ときどき わくわくを！」を策定し、以降その実践に努めるため、現在の「生駒市子ども読書活動連絡調整会議」へと至

る。

平成27年度以降の主な活動として突出すべきは、学校司書の配置。教育振興部をはじめ関係各位の努力により、市内全小中学校に週3日学校司書が配置となった。出前授業、おはなし（ストーリーテリング）、ブックトークなどを公共図書館から学校等へ配達する出前授業もこの10年で大きく伸び、近年、読書案内を趣旨とした担い手が公共図書館の司書から学校司書へ主軸を移しつつある。また、加えて、ボランティアが充実し、ボランティアとの協働によって、学校からの多様な要望に応える体制が徐々に整ってきたというのも、子どもの読書環境にとって大きな前進と考える。

- ・学校に司書を置くことをずっと訴えてきたので、ここまでの形になってうれしい。県下でも誇れるこの取り組みが後退することのないよう、見守っていきたい。
- ・学校司書がいてくれることはありがたい。常勤は、財政的にはむずかしいと思うが、学校司書にしていることをデータ化し、それをもってさらによい方向に向かうようにできたらと思う。
- ・年齢別ブックリストを作成し、それを配布されてきたことに頭が下がる。子どもの数は減っていくが、ブックリストは本を読むきっかけになっているので、何らかの形で残してほしい。
- ・ふくちゃん新聞を子どもと読んでいる。年齢別（学年別）に本が並んでいてくれたらと思う。
⇒ひよこコーナーは幼児、バンビコーナーは小学校低学年としているが、一人一人発達段階が違うので、一律に何歳がこの本というのを図書館で決めつけないほうがよい。そんな時こそ、司書にきいてほしい。ブックリストも一つの目安である。
- ・昔は子ども一人でも図書館に行けたけれど、今はそれが難しい現状がある。今は子ども達がいるところに大人がでていって本とつながり役目をしないといけない。ブックトークに行く際は、学校司書に相談してテーマを決めたりしている。子ども達を知る人から、子ども達のはなしを聞くことが大事だと思っている。
- ・学校と地域の活動を一体化していく仕組みがこれからは必要。図書活動についても役割分担して責任を持てる仕組みができ、例えば学校司書が入ってない日は、地域の人が入ってくれれば、いつでも子ども達が図書館に来られるようになる。皆が無理なく出来ることを、出来るときに出来る人がし、人と人が知り合い、つながりができていくことが学校単位ですすめていけるようになったら無理なく進んでいくのではないかな。

（3）今後の「生駒市子ども読書活動連絡調整会議」について

3. 0会議を行い、様々な立場の人の意見を聞く中で、「生駒市子ども読書活動連絡調整会議」が一定の成果をみたといえること、また5年の区切りの年でもあることから、今回でこの会議をとじ、その役割を「トライ！生駒子ども読書会議」に移し、子ども読書推進をはかっていくこととする。

- ・この会議は、様々な立場の人が参加し、自由な発言ができ、前向きに動いていくような会議だった。簡単にすすまないこともあっただろうが、学校司書の配置の実現は大きな進歩である。

また、配置された学校司書も研修がしっかりされていて、よい学校司書がそろっている。

今後は、学校司書がどういう仕事をする人なのかを考えていかなければならない。

読書を支えることだけでなく、学力向上、どう授業支援していくかが課題である。

- ・「家読（うちどく）」については、教育熱心な家庭はよいが、介護や経済的理由など教育に余裕のない家庭はどうするか。ハンディキャップのある子にはどうするか。児童養護施設の子（1対1で読んでもらう機会のない）はどうするか等、本当に届けないといけないところに届ける方法を福祉担当課と連携しながら考える必要がある

多忙な保護者や教員が「楽になる」読書推進とは何かを考えなければならない。

- ・生駒市図書館の「ふくちゃん本よも隊」の手帳は、ブックリスト掲載の本を読むと切手サイズの本の表紙シールがもらえてかわいい。読んだものに○印をつけるよりわくわくする。そういう小さな図書館の一つ一つの取り組みが子ども達に読書に対するプラスの意識をもたせる作用をしてきたのではないかと思う。生駒市で今まで培ってきた土台に、新しいことを積み重ねていってもらいたい。